

# 海外移住 資料館だより

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館  
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階  
Tel:045-663-3257(代) URL: <https://www.jica.go.jp/jomm>  
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 朝熊由美子

ハワイ日本人移住150周年

## 最初にハワイへ移住した 「元年者」たちの軌跡

がん ねん もの



元年者・佐藤徳次郎の子孫たち(撮影:ピーター田中)

### 企画展示

ハワイ日本人移住150周年

## 元年者に始まるハワイ移民と 邦字紙が果たした役割

10月6日(土)～12月24日(月・祝)

JICA横浜 海外移住資料館(企画展示室)

### 公開講座

## バックヤードから語る移民史 ～外交史料こぼれ話～

講師 柳下宙子氏 元外務省外交史料館課長補佐  
(閲覧室長、資料保存室長を歴任)

日時 11月3日(土・祝) 14:00～15:30

会場 JICA横浜 会議室1

入場無料・予約不要

# ハワイ移民の先駆者

がん ねん もの

## 「元年者」たちの軌跡

佐藤徳次郎  
 (『ハワイ日本人発展史』  
 森田榮1915)

吉田勝三郎  
 (田坂コレクション)

中村豊松  
 (ハワイ州公文書館蔵)

石村市五郎  
 (『ハワイ日本人発展史』  
 森田榮1915)

棚川半蔵  
 (田坂コレクション)

佐久間米吉  
 (田坂コレクション)

鈴木國蔵  
 (『地方資料小鑑』千葉県編1911)

石井仙太郎  
 (田坂コレクション)

### ハワイ日本人移住150年

日本人によるハワイへの集団移住が始まって今年で150年。その先駆けとなった移民たちは「元年者」と呼ばれ、数々の困難を克服しながらハワイで生き抜き、その地に日系人コミュニティを形成しました。その子孫たちは現在八世代にまで広がり、いろいろな分野で活躍しています。そんな開拓者である元年者たちの軌跡を辿りました。

### 元年者ってどんな人？

サトウキビ耕地で働く出稼ぎ労働者としてハワイへ向かった約150人の移民集団がいました。この移民たちは1868年(明治元年)に出港したことから「元年者」と呼ばれ、ハワイへの最初の日本人集団移民と言われています。

## ハワイの歴史

ハワイ王国は1795年にハワイ諸島統一を果たしたカメハメハ一世によって建国され、その後、イギリスやアメリカから来た宣教師や商人などとの接触により近代化の波へ飲み込まれていきました。カメハメハ三世の時代(1825-1854)には憲法が制定されるなど近代国家としての体裁が整い、当時盛んだった捕鯨産業や、1835年に始まった砂糖産業の拡大で経済的にも大きく伸びました。砂糖産業はハワイの主要産業となり、そこで働く大量の労働者が必要になったことで、1852年にまず中国人が、続いてポリネシア諸島、ポルトガル、ドイツ、スウェーデンなどからも移民労働者が集まり、日本からは1868年(明治元年)に元年者約150人がハワイに渡ったのです。

- 1852 ○ 嘉永 5年 ————— 中国からの最初の契約移民195人がハワイへ
- 1853 ○ 嘉永 6年 ————— ベリーが黒船を率いて浦賀に来航
- 1867 ○ 慶応 3年 ————— 江戸幕府とハワイ王国が臨時親善協定締結
- 1868 ○ 慶応 4年
  - 1月 ————— 鳥羽・伏見の戦い。戊辰戦争始まる
  - 4月 ————— 江戸幕府がヴァン・リードに350人分の渡航許可を付与
  - 5月 3日 ——— 江戸城開城
  - 5月 17日 ——— 元年者を乗せたサイオト号が横浜を出航
  - 6月 20日 ——— 元年者約150人がハワイ上陸
  - 明治 元年 10月 ——— 江戸を東京に改め、明治に改元
- 1869 ○ 明治 2年 ————— ハワイでの元年者虐待の報告を受け、移民召還使節を派遣
- 1870 ○ 明治 3年 1月 ————— 42人の元年者が帰国
- 1871 ○ 明治 4年 7月 ————— 元年者の契約が満了し、帰国・渡米・残留
  - 8月 ————— 日本ハワイ修好通商条約調印
- 1885 ○ 明治 18年 ————— 官約移民始まる
- 1893 ○ 明治 26年 ————— ハワイ王朝崩壊
- 1894 ○ 明治 27年 ————— 官約移民終了
- 1898 ○ 明治 31年 ————— 米国がハワイ併合
- 2018 ○ 平成 30年 ————— 元年者150年記念式典に秋篠宮同妃両殿下ご臨席

注：日本では明治5年12月2日(=1872年12月31日)まで太陰暦(旧暦)を採用していたため元号と西暦にはずれがある。太陽暦(西暦)採用により、「1873年1月1日=明治6年1月1日」以降は西暦と元号が一致。年表内の慶応4年から明治4年までの「月・日」は西暦として記述している

## ハワイ移民の募集

駐在ハワイ総領事だったヴァン・リードは、江戸幕府と交渉して350人の渡航許可を受け、同時に英国船の帆船「サイオト号」を8,900ドルで借り受け、労働者をハワイへ送り出す計画を進めていました。

それと同時に東京と横浜で移民の募集に着手。契約期間は3年、給料は月26日働いて4ドル。住居と食糧は支給され、医療費もハワイ側の負担という条件でした。

しかし、当時ハワイの名前は知られておらず、集まってきたのは農業経験のない人や職人たちが多く、一旗揚げようという人々が乗り込んでいきました。

横浜の遊女屋神風楼の番頭をしていた牧野富三郎は、片言の英語を話せることから移民頭に抜擢されました。



ジョセフ・ヒコとヴァン・リードの写真(播磨町郷土資料館所蔵) 左がヴァン・リード。

These Names of Japanese Laborers  
Carried for Saito

1	Muchich	ムチチ	30	Yasuda	ヤスダ
2	Shun	シュン	31	Tate	タテ
3	Shintaro	シンタロ	32	Tsuyoshi	ツヨシ
4	Chikgoro	チクゴロ	33	Matsu	マツ
5	Tame	タメ	34	Kichi	キチ
6	Shokichi	ショクチ	35	Hana	ハナ
7	Hama	ハマ	36	Tada	タダ
8	Goykei	ゴウケイ	37	Kato	カト
9	Sanimon	サンモン	38	Shige	シゲ
10	Satar	サタル	39	Toku	トク
11	Kura	クラ	40	Kanekichi	カネキチ
12	Muney	ムネ	41	Shiro	シロ
13	Shin	シン	42	Kichi	キチ
14	Yoshiichi	ヨシイチ	43	Yoshi	ヨシ
15	Masa	マサ	44	Shiro	シロ
16	Yoshiichi	ヨシイチ	45	Jiro	ジロ
17	Hama	ハマ	46	Nobu	ノブ
18	Chikgoro	チクゴロ	47	Yone	ヨネ
19	Muney	ムネ	48	Yoshi	ヨシ

契約終了時に牧野富三郎が作成した元年者ネームリスト(ハワイ公文書館蔵)

## 新政府との交渉

ハワイ行きの準備が進むころ、鳥羽・伏見の戦いで勝利した新政府軍が江戸に攻め上がり、横浜も5月にはその支配下に入ったことで、元年者の出航が危ぶまれる事態となりました。というのも、新政府はヴァン・リードが江戸幕府から受け取った渡航許可を無効としたのです。ヴァン・リードは新政府との交渉を重ねましたが新しい渡航許可は下りず、ついには無許可のままハワイへ向けて出港しました。1868年5月17日のことです。

## ハワイへの航海

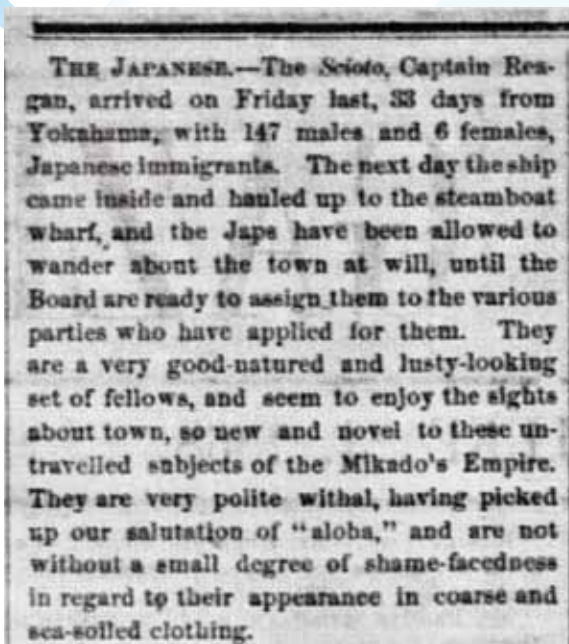
元年者の佐久間米吉が残した航海日記によると、最初の3日ほどは風が強く、船酔いで誰一人食事をとれないほどだったようです。

波が穏やかになると、神の助けだと考えた移民たちは感謝の思いから鬻<sup>まげ</sup>を切り落とし、海に投げ込みました。そのうち暇を持て余した移民たちは賭博をはじめます。賭博を行なった場所が調理室の屋根だったことから、仕事の邪魔になると中国人コックが下から熱いお茶をかけてきて大騒ぎに。移民頭の牧野富三郎が仲裁に入り静めたと記されています。



元年者が乗り組んだ英国籍の帆船サイオト号(『移民百年の年輪』川添櫻風1968)

## ホノルル上陸



日本からの移民について報じる『ハワイアンガゼット』(1868年6月24日)  
(ハワイ州図書館蔵)

1868年6月20日、元年者たちはハワイのホノルルに上陸。現地でも大きなニュースとなり、地元の新聞『カ・ヌペパ・クオコア』の記事には「我々はサトウキビ耕地の労働がうまくいくことを望んでおり、(日本人が)良い待遇で扱われれば、今後より多くの移民が来るだろう」と記されています。また、到着後の元年者たちの様子について英字新聞『ハワイアンガゼット』には「彼ら日本人は一見するに人が良さそうで元気旺盛のようである。ミカドの帝国の人民たちは外国へ行ったことがないらしく、物珍しそうに市内を歩き回っていた」などと書かれていました。

34日間の航海を終えて上陸した元年者たちに対し、現地の人々は帽子や洋服を与え、食べ物、住居、薬湯などを提供してくれたことを牧野富三郎が報告しています。



1869年のホノルル(ハワイ州公文書館蔵)

## ハワイでの暮らし

元年者のほとんどがサトウキビ耕地で労働者として働きました(オアフ島102人、マウイ島33人、カウアイ島8人、ラナイ島4人)。しかし、数カ月が過ぎた頃からサトウキビ畑の雇い主との間にトラブルが起きるようになりました。東京や横浜出身の農業経験のない人たちにとって、炎天下での長時間労働は耐え難く、その上、鞭でたたかれたり体調不良でも仕事を休めなかったりしたことも、紛糾の一因と言われています。また、通訳がいないことも問題を大きくし、とうとう自殺者や病死者も出てしまいました。

この知らせを聞いた明治政府は、移民を日本に取り戻すため、ハワイ王国と交渉する移民召還使節の派遣を決定。薩摩藩士の山野敬介景範をハワイに送り、42人の即時帰国と残りは契約満了後ハワイ側の負担で帰国することを取り決め、元年者は正式の移民として認められました。

## 多様な子孫たち

3年の契約期間が終わる時、移民頭の牧野富三郎はハワイ生まれの二世を含む元年者151人の統計を作成して日本に送りました。それによると、ハワイ残留者が90人(アメリカ転航者を含む)、帰国者51人、死者7人、不明3人となっています。

ハワイには日本人だけでなく世界のさまざまな地域からサトウキビ耕地で働く労働者がやってきました。彼らの一部も元年者と同じように祖国に帰らずハワイに定住するようになり、多民族が共に生きるハワイ社会が形成されていきました。ハワイ人と結婚した元年者・佐藤徳次郎の子孫はすでに八世まで誕生していますが、今では多くの民族出身者から成り立つファミリーとなっていて、まさにハワイ社会を象徴するかのような家族構成になっています(表紙写真)。



明治元年渡航者之碑(撮影:鈴木啓)

企画展示

# 「日伯110年の絆-在日ブラジル人 -在日30年をむかえた日系人の歴史と日常-」終了



6月16日から9月2日まで、在東京ブラジル総領事館と共催で企画展「日伯110年の絆-在日ブラジル人-在日30年をむかえた日系人の歴史と日常-」を開催しました。1990年の入管法改正により、日本への入国と就労が可能となったブラジル日系人たち。彼らの日本での日常に寄り添い、その喜びや悲しみ、活躍する姿などを撮影した在日日系ブラジル人写真家のマエダ・ジュニオールさんの作品を紹介したほか、入管法改正当時のパスポートや新聞雑誌などの資料も展示。今年で110年となるブラジル移住の歴史とともに、在日日系ブラジル人の30年を振り返りました。

8月25日にJICA横浜で開催された「日伯経済文化協会（ANBEC）・JICA夏休みブラジル人親子ワークショップ」に参加した  
在日ブラジル人親子と運営スタッフに、企画展示の感想をうかがいました。



栃木県宇都宮市在住  
(日系三世、四世)  
**イズノ タツオさん**  
(製造業)  
**サユリさん**(農業)  
**ユウトくん**(小2)

「資料館には初めて来ました。写真展示を見て、私たちは家族で来ました。一人でも日本に来た人たちは、さぞ寂しかったのだと思います。自分たちは来日前にいろいろと調べることができましたが、日本からブラジルに渡ったお祖父さんやお祖母さんは、大変だったでしょうね」



埼玉県幸手市在住  
(日系三世、四世)  
**佐藤百合子さん**(製造業)  
**歩美さん**(中2)  
**由香里さん**(小3)

**百合子さん**「ちょうど自分も90年代に日本に来たので懐かしかったです。家族と離れて一人でも来日し、寂しかったけれど、会社の人たちがとても温かく、日本語も教えてもらえてありがたかったです。日本人は互いに協力し合うところが素晴らしいと思っています」

**歩美さん**「日本とブラジルの関係について知ることができて良かったです。ブラジルには一度行ったことがありますが、小さかったので覚えていません。今後はいろいろな国に行きたいです」



ANBECボランティア (左から)

**松栄安海さん、松本みなみさん、廣瀬かおりさん**

**松本さん**「資料館のことは知っていましたが、遠くてなかなか訪れる機会がありませんでした。今回ワークショップのお手伝いで来てことができ良かったです。固そうなイメージの資料館ですが、実際に来てみると昔勉強した内容が展示されていてワクワクし、話に聞いていた場面を実感することができ感動しました。せっかく素晴らしい資料館があるのだから、もっと多くの人に見て欲しいです」

# 第59回海外日系人大会

## ～ハワイ元年者150周年記念 in ハワイ～

年間を通して元年者150周年を祝うイベントが開催されているハワイのホノルル市で6月6日、海外日系人協会主催の第59回海外日系人大会が開催され、世界各地から集まった日系人たちが「世界の日系レガシーを未来の礎にーハワイ元年者150周年を祝ってー」をテーマに討議やパネルディスカッションを行ないました。開会式には秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、15カ国から約300名が出席しました。



ミスティ・ケライさんによるハワイアン・オリ(お祈り)



秋篠宮同妃両殿下

### お言葉

「海外移住の先駆者は多くの苦労を重ね、それぞれの地において生活の道を拓いてこられました。また、その子孫である皆さまが、たゆまぬ努力を積み重ねられ、日系社会の礎を築き上げられるとともに、各方面で活躍し、地域社会から多大な信頼を得ている

ことは誠に喜ばしく、心強いものを感じております」

「今日まで連綿と続いてきた日系社会と日系人の150年の歴史を振り返り、その良き伝統と文化を新しい世代に引き継ぎ、また、将来の展望について世代を超えて議論することは大変意義深いものと考えます」

### 記念講演

## 信頼で世界をつなぐJICAへ

国際協力機構理事長 北岡伸一

横浜にある私どもの海外移住資料館やブラジル日本移民史料館の基本理念は「われら新世界に参加す」です。日本人移住者が新しい文明の形成に重要な役割を果たした参加者であると文明史的な意味づけを行っております。

多くの移住者や日系人の皆さまは困難を乗り越えられました。そして移住先国の発展に貢献し、大きな信頼を得てこられました。

2017年、JICAは「信頼で世界をつなぐ」をキーワードに、新たなビジョンを定めました。各国の日系人の皆さまが何世代にもわたって信頼を築き上げてきたように、JICAも信頼で

世界をつないでいきたいと考えています。そのための大切なパートナーが日系社会の皆さまです。

最近になって日本は20数年続いた停滞から抜け出しつつあります。いまこそ150年前の明治維新のような、ダイナミックな歩みを始めるときです。

海外の皆さまに「やはり我々の祖国はすごい」と言ってもらえるように、全力を尽くさなければならないと考えております。

(一部抜粋) 北岡伸一 JICA理事長

JICAウェブサイトにも全文掲載

<https://www.jica.go.jp/about/president/20180606.html>



(写真提供 海外日系人協会)

### 海外移住資料館 周辺マップ



### 今後の予定

- 10月6日(土) 企画展示「ハワイ日本人移住150周年～元年者に始まるハワイ移民と邦字紙が果たした役割～」(12月24日まで)
- 10月27日(土) ハロウィン・スタンプラリー開催
- 11月3日(土・祝) 公開講座「バックヤードから語る移民史～外交史料こぼれ話～」
- 11月11日(日) VIVA110! 横浜で祝おうブラジル日本移民110周年

- 開館時間 10:00～18:00 (入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料

- アクセス**
- みなとみらい線  
「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分  
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分
  - JR線・市営地下鉄  
「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)徒歩約15分